

## 研究・調査報告書

|   |        |                          |
|---|--------|--------------------------|
| 分類番号  | 報告書番号  | 担当                       |
| A-152   | 22-055 | 滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之 |
| <b>題名 (原題/訳)</b>  |        |                          |
| Moderate Alcohol Consumption and Depression: A Marginal Structural Model Approach Promoting Causal Inference<br>中等度のアルコール摂取とうつ病：因果推論を促進する周辺構造モデル  |        |                          |
| <b>執筆者</b>  |        |                          |
| Visontay R, Mewton L, Slade T, Aris IM, Sunderland M.   |        |                          |
| <b>掲載誌</b>  |        |                          |
| Am J Psychiatry. 2023 Mar 1;180(3):209-217. doi: 10.1176/appi.ajp.22010043.   |        |                          |
| <b>キーワード</b>  |        | <b>PMID</b>              |
| アルコール摂取、飲酒頻度、飲酒量、うつ病、成人期  |        | 36651625                 |
| <b>要 旨</b>  |        |                          |
| <p><b>目的：</b> 中等度のアルコール摂取はうつ病のリスク低下と関連すると報告されているが、因果関係は明らかにされていない。そこで、成人初期から中期にかけての飲酒頻度、飲酒量が 50 歳時点でのうつ病に及ぼす影響を明らかにすることを目的とした。</p> <p><b>方法：</b> 1994 年の米国の調査データをベースラインとし、アルコール関連情報等を有する 29-37 歳 3,593 人を分析対象とした。アルコール摂取量は、非飲酒、機会飲酒（平均 1 回/週未満）、中等度飲酒（平均 1 日/週以上、女性<math>\leq</math>7 杯/週、男性<math>\leq</math>14 杯/週）、過剰飲酒（平均 1 日/週以上、女性<math>\geq</math>7 杯/週、男性<math>\geq</math>14 杯/週、一時的な多量飲酒を含む）に分類した。うつ病の判断は、一般集団の抑うつ状態を測定する CES-D-SF を用い、8 点以上をうつ病疑い、8 点未満を非うつ病に分類した。時間固定変数は、飲酒歴、性別、喫煙歴、違法薬物の使用歴、人種、学歴等とし、経時変化変数は、CES-D-SF スコア、年齢、自己申告による健康状態、配偶者の有無、喫煙の有無、違法薬物の使用、肥満度、雇用・健康保険・生活保護受給の有無、世帯規模、居住地域（都市/地方）、収入等とした。1994 年、2002 年、2006 年のアルコール摂取量を周辺構造モデルにより重み付けをし、50 歳時点の CES-D-SF スコアおよびうつ病疑いとの関連を多変量線形回帰およびロジスティック回帰分析により解析した。</p> <p><b>結果：</b> 結果は J カーブを示し、一貫した機会飲酒（CES-D-SF スコア：<math>b=-0.84</math>, 95%CI=-1.47, -0.11, うつ病疑い：オッズ比 (OR) =0.58, 95%信頼区間(CI)=0.36, 0.88) と中等度飲酒 (CES-D-SF スコア：<math>b=-1.08</math>, 95%CI=-1.88, -0.20, うつ病疑い：OR=0.59, 95%CI=0.26, 1.13) は、非飲酒と比較して 50 歳時点の CES-D-SF スコアとうつ病疑いリスクが低かった。一貫した過剰飲酒は、非飲酒と比較して CES-D-SF スコアが高く、うつ病疑いリスクもわずかに上回ったが統計的に有意な関連は認めなかった。</p> <p><b>結論：</b> 適度なアルコール摂取とうつ病リスクの低下との因果関係を反映している可能性がある。因果推論を促進するには、柔軟な非線形メンデルランダム化など、アルコールとうつ病の関係に新しいアプローチを適用するさらなる研究が必要である。</p> |        |                          |